

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成 26 年
武道振興大会

武道の振興発展を図る 具体的施策を要望



挨拶に立つ高村正彦武道議員連盟会長



決議文を手にする下村博文文部科学大臣(右)と武道議員連盟副会長・前田武志参議院議員

□平成 26 年武道振興大会

下村博文文部科学大臣に決議文を 直接手渡し

平成 26 年武道振興大会は、3 月 5 日、東京・永田町の憲政記念館で関係者 219 名が集まり、盛大に開催された。大会では主催三団体（武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館）がまとめた武道振興を要望する決議文が満場一致で採択され、武道議員連盟副会長の前田武志参議院議員より、下村博文文部科学大臣に直接手渡された。



高村正彦武道議員連盟会長



松永光日本武道協議会・日本武道館会長



臼井日出男日本武道協議会・日本武道館理事長

大会には、武道議員連盟に加入する国会議員74名、文部科学省、日本武道協議会・日本武道館役員ほか、関係者219名が集まった。定刻の正午、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の司会により、北川知克武道議員連盟事務局長の開会宣言で始まった。

続いて、主催三団体代表挨拶へと移り、高村正彦武道議員連盟会長が登壇した。

「日本人の精神的支柱には、武士道精神があります。その精神を今の世に最も伝えてるのが武道です。中学校武道必修化は当初危惧されていたような大きな事故もなく、まずはめでたしというところです。技術を学ぶ中で心と体を鍛える、人間が生きて道を求めるといふ武道の真髄に、全ての日本人が触れる状況を作らなければなりません。それには、全国津々浦々の武道関係者の皆様のご協力が必要です。特に、中学校における武道授業では、学校現場への積極的な参加をお願いします。皆様方の一層のご健闘を心からお祈りし、主催者挨拶といたします」

次に、松永光日本武道協議会・日本武道館会長が挨拶に立った。

「例年、武道を愛する方々が、この日こそという決意を持ってお集まりいただき、誠に嬉しい限りです。日本武道館は東京オリンピックの折に、天皇陛下の御下賜金を賜り、武道愛好者の方々の協力のもと建てられました。その後50年が過ぎ、2020年に再び、東京でのオリンピック・パラリンピック開催が決まりました。日本武道館は柔道会場となりますが、先生方のご支援のもと、立派な大会にしなければならぬと考えます。本日お集まりの皆様方は、大変熱心に武道の振興について考えていらつしやいます。どうぞ、これからも大いに活躍いただきたく思います」

その後、前田武志武道議員連盟副会長が壇上に進み、武道振興に関する7つの要望を盛り込んだ大会決議を朗読。満場一致の拍手で採択された決議文が、前田副会長から下村博文文部科学大臣に直接手渡された（決議文全文別掲）。

来賓祝辞では、まず安倍晋三内閣総理大臣の祝辞文（別掲）が披露された。その後、下村文部科学大臣が登壇し、「武道は我が国固有の文化

であり、自らを律し、相手を尊重する態度を養う上で、意義のあるものです。文部科学省では、全国の中学校で武道の授業を確実に実施し、その教育効果を高めるため、施設、指導者、用具について、引き続き条件整備に努めてまいります。また、来年度から小学校の道徳用教材に、武道における『道』を、題材として取り上げます。これらの取組は、子供たちが伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛する態度を養うことにつながるものと期待しています」と述べた。

続いて、武道九団体の代表者が順番に挨拶に立ち、各種目の現状・課題などを語った。その後の懇親会では、臼井日出男日本武道協議会・日本武道館理事長が「皆様の熱意で、日本の武道がより発展いたしますよう、これからもご協力をお願い申し上げます」と述べ、力強く乾杯の発声を行った。出席者は和やかな雰囲気の中、武道のさらなる発展について、大いに歓談した。

午後1時過ぎ、北川事務局長が出席者への感謝の言葉を述べ、武道振興大会は盛会の裡に幕を閉じた。

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年来、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟って、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。また、三年前には東日本大震災が発生し、その爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命・伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。また、昨年九月には、東京で二〇二〇年にオリンピック・パラリンピック大会を開催することが決定した。誠に、ご同慶の至りである。

翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としてはぐくむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

記

- 一 平成二十四年四月に完全実施された中学校武道必修化が成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。
- 二 特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道学科卒業の新卒教員を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。

また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、複数種目の実施を図り、武道ならではの教育効果が高まる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

三 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向け、柔道会場となる日本武道館の建物・設備の充実に最大限の支援・助成を行うこと。また、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、日本武道代表団や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進し、必要な支援、助成を行うこと。

四 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

五 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財指定について所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

平成二十六年三月五日

内閣総理大臣祝辞

武道振興大会の御盛会、誠にめでとうございます。

武道は、心技体を一体として、礼を修め、技を磨き、身体を鍛え、心胆を錬るといふ、我が国が世界に誇る伝統文化です。「礼に始まり、礼に終わる」といわれるように、礼節を重んじる武道が、今日、我が国のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれていることは、御同慶に堪えません。

第一次安倍内閣で改正した教育基本法では、道徳心を培うこと、健康やかな身体を養うこと、伝統と文化を尊重することを教育の目標として明記するとともに、中学校で武道を必修としました。次代を担う子どもたちが、授業をはじめとする様々な場面で武道に触れることで、心身ともに健全に育つことを願ってやみません。

また、六年後には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。大会を契機に、国内外の多くの方々が、競技種目である柔道のみならず、我が国の伝統文化たる武道の真髄に触れ、平和で豊かな社会作りへとつながることを期待しています。

結びに、本日御参集の皆様には、平素から武道振興に御尽力を賜っており、誠に感謝申し上げます。何卒、今後とも、より多くの皆様方の心身の健全な発達のため、そして武道を通じた日本理解や国際親善の増進のため、お力添えを戴きますよう祈念申し上げます。私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十六年三月五日

内閣総理大臣

安倍晋三

インタビュー

▽下村博文 文部科学大臣



「中学校の武道授業で、学校の先生だけで十分対応できない部分は、それぞれの各武道における指導者の方々との協調をお願いすることになります。子供にとつて最も恵まれた環境で武道を学ぶことができるよう、国もバックアップしていきたいと考えます。各教育委員会も、外部指導者の活用を積極的に進めていただきたいと思えます」

▽久保公人 文部科学省スポーツ・青少年局長

「来年度の道徳の教科書には『道』という言葉が取り上げられ、『人間をつくる道』として武道の素晴らしさが紹介されます。東京オリンピック・パラリンピックの開催決定もあり、道とスポーツの両面で広がりが出始めています。この大会を契機に、さらに発展してほしいと感じます」



各武道の代表者に聞く

各連盟・団体の代表者に、武道振興の現状と指導者の育成について話を伺った。

(武道振興大会挨拶登壇順)



佐藤浩市
全日本なぎなた連盟会長



新井庸弘
少林寺拳法連盟会長



酒井 健
全日本銃剣道連盟会長



植芝守央
合気会理事長



南 和文
日本相撲連盟副会長



笹川 堯
全日本空手道連盟会長



宇野博昌
全日本柔道連盟事務局長



松永政美
全日本剣道連盟副会長



加藤 出
全日本弓道連盟専務理事

▽銃剣道

酒井健全日本銃剣道連盟会長

「銃剣道は、真つ直ぐな木銃で相手を突き、勝敗を競う武道です。単純であるがゆえ、奥が深いのですが、子供たちに練習させれば、簡単にある程度のレベルまで達することができます。わかり易く、とても親しみやすい武道です。」

中学校の授業では、未だに採用校がありませんが、指導者の育成など、精一杯の努力をしたいと思います」

▽少林寺拳法

新井庸弘少林寺拳法連盟会長

「指導者は、少林寺拳法の教えと技法の両方に精通していなければなりません。人が引つ張るわけですから、人格的なことが大事です。自分の可能性を信じて人を大切にし、粘り強さを持った正義感の強い人間を育てていきたいと思えます。」

若手の指導者育成も行っていきますが、最近の若い人たちは、苦しいこと、つらいことを嫌う傾向があります。そこを乗り越え、どれだけやる気を出して指導に取り組んでいただけるのが、一番の課題です」

▽なぎなた

佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長

「私が会長になって2年間の公約が、公益財団にすることと財政の再建でした。今年は3年目ですが、ようやく指導者の育成や普及促進などを行うことができるようになりました。簡単ではありませんが、2、3年の間には、ひとつの形にしたいと思います。指導者には日本の伝統文化を次世代に伝える熱意を持っていただきたいです」

▽空手道

笹川堯全日本空手道連盟会長

「現在、武道はスポーツ化している面があります。しかしながら、武道家としての心を忘れてはなりません。礼節を重んじ、試合に勝った後でも相手の気持ちを察し、ガッツポーズはしない。空手道は武道なので。指導者には、このような考えを踏まえながら、共に学ぶ態度を持つて生徒に接してほしいです。タテ社会よりヨコ社会が重要です」

昨年、オリンピック・パラリンピクスの東京開催が決まり、本当に嬉しく思います。正式種目に入ってい

ようといまいと、心を一つにして応援する必要があると思います」

▽相撲

南和文日本相撲連盟副会長

「連盟では国際化を目指すために国際相撲連盟を設立し、現在87カ国が加盟しています。2005年からはワールドゲームズの正式種目になっています。さらに世界に広まり、オリンピックの正式種目に採用されることを願っています」

国内では、武道必修化により約400の中学校で相撲が授業に取り入れられています。相撲経験のない先生方にも理解してもらえよう、しっかりと体系づけたものを講習会や指導書で伝えたいと考えています」

▽合気道

植芝守央合気会理事長

「中学校保健体育の授業では、約40校が合気道を採用しています。外部指導者の要請を受けたり、道場で保健体育の先生方を指導したりと、いろいろな展開が生まれています。学校教育でのカリキュラム作りや、地域への伝達を視野に入れた指導者講習会なども行っています」

習会なども行っています」

指導者には、自分が初心者だった頃を思い出しながら、相手の立場になって、一方通行にならないような指導を心がけていただきたいです」

▽弓道

加藤出全日本弓道連盟専務理事

「中学校での武道授業実施校には、弓具を贈呈するなどの支援体制を整えています。世間的には飛び道具で危ない、弓道場がないとできないなどの思い込みがあります。入門書などを携えて、教育委員会や学校長を訪問し、採用への働きかけを行おうと思います」

指導者講習会は短時間で効率のいい内容になるよう心がけ、実のあるものにしたと考えています」

▽剣道

松永政美全日本剣道連盟副会長

「文部科学省からの支援もあり、全国で指導者講習会を開いています。女子剣道が盛んになったのもその一環です。また、学校や道場などにおける指導者の資質向上を図るため、社会体育指導員養成講座を設けてい

ます」

国際的には、来年5月に日本武道館で第16回世界剣道選手権大会を開きます。現在の参加予定国は54カ国です。これからさらに増えるのではないかと思います」

▽柔道

宇野博昌全日本柔道連盟事務局長

「誤った勝利至上主義という形が、いろいろな不祥事につながったのではないかと反省があります。現在、柔道、武道の精神を重んじて事に当たっており、その効果はだんだん上がってきていると思います」

指導者の資質向上と正しい普及発展を目的に、平成25年度から公認指導者資格制度を設けました。指導者は安全指導を重視し、事故の防止に努めなければなりません。武道授業については、柔道経験のある教師が多いとはいえ、外部指導者の育成も関係組織との協力の上、行っていきたいと思っています。柔道は人間教育、大人も子供も修行中」という言葉の入ったポスターを配っています。そういう精神を大切にして取り組んでまいります」



充実した武道授業実施のための 条件整備を検討

武道議員連盟総会

武道議員連盟総会は、3月5日、武道振興大会に先立ち、憲政記念館会議室で開かれた。会議には74名の国会議員（代理出席を含む）と、日本武道館・日本武道協議会役員、文部科学省幹部の計87名が出席し、当年度の収支報告、文部科学省の武道振興施策の説明、日本武道協議会の現場報告、質疑が行われた。

福岡資麿事務局次長が司会を務め、始めに高村正彦会長が「武道振興のためにご尽力いただいていることに感謝申し上げます」、次に松永光日本武道館会長が「武道必修化の効果が確実にありますよう、先生方のご協力をお願いする次第でございます」と挨拶を述べた。

続いて、事務局報告として、北川知克理事・事務局長が会計報告書を読み上げ、内容が承認・可決された。

その後、国の武道振興施策として、久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長が、「武道の必修化を導入して、2年経ちました。いまのところ大きな事故もなく、着々と進んでいます。まだまだ課題はございま



憲政記念館外観

すが、武道の振興が図られるよう、出来る限りの努力をしまいにまいります」と述べ、学校における武道指導の充実、武道団体への支援等に関する、予算と取組を説明した。26年度の武道関係予算は合計52億4000万円、うち、「武道場の整備」に46億円、「指導内容の充実」に5億7000万円、また、相撲と銃剣道の全国研修会が増えるため、日本武道館への補助を600万円増額し、6200万円とすることが伝えられた。そのほか、「武道関係教材等の充実」



福岡資麿
武道議員連盟事務局次長



北川知克
武道議員連盟理事・事務局長



松永光日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



衛藤征士郎衆議院議員



穴見陽一衆議院議員



久保公人文部科学省
スポーツ・青少年局長

については、地方交付税措置を行う旨の説明があった。
続いて、日本武道協議会の現状報告へと移り、栗原茂夫全日本空手道連盟副会長が次のとおり述べた。
「国際的な現状を説明すると、世界空手連盟（WKF）の加盟国数は185、愛好者は6千万人と言われています。多くの国際大会が行われます。



新井庸弘
少林寺拳法連盟会長



栗原茂夫
全日本空手道連盟副会長

中、オリンピックの正式種目になるよう、働きかけをしており、来る東京オリンピック・パラリンピックでの正式種目化を目指しています。
中学校武道必修化については、授業で空手道を採用している学校は、191校に及びます。今後採用校が増えるよう努力を重ねてまいります」
続いて、新井庸弘少林寺拳法連盟会長が次の内容を述べた。
「日本国内では各都道府県連盟等の傘下にある支部の数は2930です。また、国際的には37カ国で行われ、15の国の連盟、48の支部があります。世界大会も行われており、昨

年8月に大阪で開催しました。本年8月にはインターハイの正式種目として採用され、11月には全国大会をさいたまスーパーアリーナで行う予定です。中学校での採用状況は、初年度25校、2年目26校と少ないですが、指導者の養成など、地道にあきらめず、取り組んでまいります」
質疑では、穴見陽一衆議院議員が「武道場の整備促進について、地域により温度差があるので、文部科学省にはこれを推進する政策を打ち出してほしい」、衛藤征士郎衆議院議員が「空手道は6千万人も愛好者がおり、オリンピックの正式種目になるよう、国際的な対策を立ててほしい」と、意見を述べた。
これに対し、久保局長は「全国各地に武道場を設置することは重要です。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けても、全国各地でスポーツを盛んにしなければなりません。財源を確保しながら、老朽化している施設への対策も含めて整備するよう、指導を心がけます」と答えた。
最後に司会の福岡事務局次長が閉会を宣し、会議は終了となった。

武道議員連盟役員名簿

顧問	保利 耕輔 (自民)		
会長	高村 正彦 (自民)		
副会長	江渡 聡徳 (自民)	衛藤征士郎 (自民)	大島 理森 (自民)
	大島 章宏 (民主)	河村 建夫 (自民)	鴻池 祥肇 (自民)
	小坂 憲次 (自民)	塩谷 立 (自民)	高木 陽介 (公明)
	藤井 孝男 (維新)	前田 武志 (民主)	
理事長	大島 章宏 (民主)		
理事	逢沢 一郎 (自民)	有村 治子 (自民)	江田 康幸 (公明)
	北川 知克 (自民)	羽田雄一郎 (民主)	森 英介 (自民)
	山谷えり子 (自民)		
事務局長	北川 知克 (自民)		
事務局次長	福岡 資麿 (自民)		

文部科学省資料

学校体育における武道の充実

中学校武道の必修化に当たり、その円滑な実施のための各種対策

—武道場の整備、指導内容と武道関係教材等の充実—

<p>1. 施設対応 武道場の整備</p> <p>↓</p> <p>武道場の整備促進を図る。</p> <p>(26年度予算案) (4,604百万円)</p> <p>○公立中学校武道場の整備 ○私立中学校等武道場の整備</p>	<p>2. 指導者対応 指導内容の充実</p> <p>↓</p> <p>指導者における 指導力の向上を図る</p> <p>(26年度予算案) (574百万円)</p> <p>○武道等指導推進事業 ○運動部活動指導の工夫・改善 支援事業 ○体育活動における課題対策推 進事業 ○その他(武道講習会の開催等)</p>	<p>3. 用具対応 武道関係教材等の充実</p> <p>↓</p> <p>中学校における 武道防具等の整備を図る</p> <p>○義務教育諸学校における新た な教材整備計画(地方交付税 措置) ・「教材整備指針」に基づく教 材の整備に必要な経費を平成 24年度から10年間地方財政 措置 (例)柔道畳、剣道防具一式等</p>
--	--	---

武道の振興について

文部科学省スポーツ・青少年局

26年度予算案 52億4,024万円

平成26年度は、中学校の保健体育において武道が必修となり3年目。引き続き、全国的に円滑かつ効果的な指導に向けて、施設、指導者、指導内容、指導方法の充実に努めるとともに、事故防止、安全管理の徹底に取り組んでまいります。

1. 学校における武道指導の充実

(1) 武道場の整備

46億0,413万円

平成24年度から中学校で必修となった武道を円滑に実施できるよう武道場の整備を促進。

- 公立中学校武道場の整備（学校施設環境改善交付金）
- 私立中学校等武道場の整備（私立学校施設整備費補助金）

(2) 指導内容の充実

5億7,418万円

○武道等指導推進事業

地域の指導者の技術及び安全に関する専門的な指導力の活用方策や、派遣する競技団体等の支援体制の強化に関する実践研究を実施。また、教員を対象とした安全指導の充実を図るための取組を推進するとともに、武道等の指導の成果等の検証を実施。

○運動部活動指導の工夫・改善支援事業

運動部活動の現場から体罰を根絶し、適切な指導方法・内容の運動部活動を推進するため、指導者の資質向上を図るとともに、地域のスポーツ指導者の活用など地域との連携を推進。

○体育活動における課題対策推進事業

体育活動中の事故防止やスポーツ医・科学を活用した体育授業の効果的な実施など様々な課題に対応し、安全でより効果的な体育活動を実施するための取組を推進。

○文部科学省等が実施する武道講習会

（独）教員研修センターや武道関係団体との共催により、体育担当教員や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなり得る教員を養成するための武道講習会を実施。

【参考：都道府県教育委員会における取組】

・都道府県教育委員会が実施する武道講習会

各都道府県教育委員会が、武道の指導経験の浅い体育担当教員を対象とした基本的技能習得のための講習会や、体育担当教員等を対象とした講習会を実施。

(3) 武道関係教材等の充実

平成24年度から、10か年にわたる「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」に基づき、所要の地方財政措置が講じられている。

2. 武道団体への支援等

(1) (公財) 日本武道館への補助

6,194万円

日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対して補助。

(2) (独) 日本スポーツ振興センターによる助成

スポーツ振興基金やスポーツ振興くじ等を通じて、団体の行う選手強化活動や武道教室等の事業などに助成。

（平成24年度実績額） 1億9,005万円

（平成25年度配分額） 2億0,130万円

好評発売中

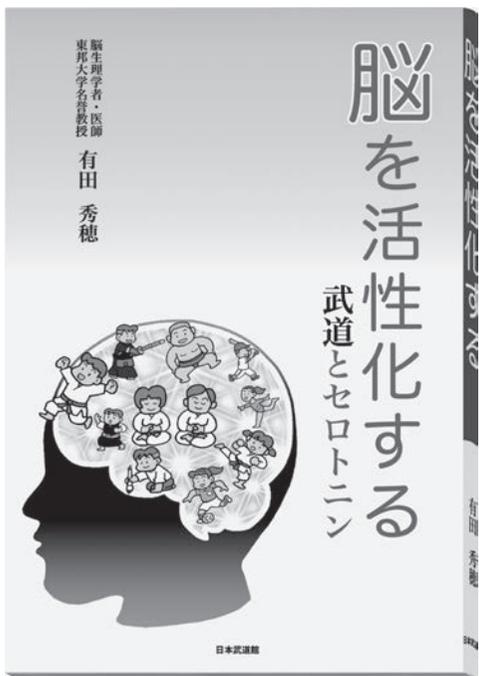
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

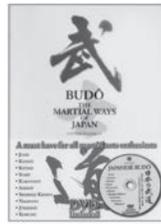
日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

第26回国際武道文化セミナー 「国際化した武道」をテーマに

28カ国98名が参加



実技研修会

The 26th International Seminar of Budo Culture

第26回国際武道文化セミナー（主催＝日本武道館、後援＝文部科学省・日本武道協会、協力＝国際武道大学、日本武道学会）は3月7日～9日に2泊3日の日程で千葉県勝浦市の日本武道館研修センターと国際武道大学で開催された。

本セミナーは、在日外国人武道修行者及び日本人武道修行者を対象に武道の理論・技術はもとより、歴史・科学などについてもより理解を深め、武道を通しての親善と伝統文化の国際的発展に寄与することを目的として行われている。第26回となる今回は、28カ国の在日外国人と日本人10名の計98名が参加した。

【1日目】

午後2時半からの開講式では、主催者を代表して三藤芳生日本武道館理事・事務局長が、「セミナー参加を心より歓迎します。武道の理解を深めるために、在日中の外国人武道修業者の皆さんと、本年から新たに日本人の武道修業者も対象にして行うセミナーです。『武道の理念』にもあるとおり、武道は日々の修練をとおして人間を鍛え、高めていく人間形成の道です。参加者の皆さんは、このセミナーを通して、武道の理解を深め、よりよい武道修業の糧になることを期待するとともに、先生方との交流、参加者同士の親睦が深まることを祈念します」と挨拶。続いて、講師と各武道の専門委員・助手が紹介された。

開講式が終わると、有田秀穂東邦大学名誉教授の講義「武道で脳を活性化する」が行われた（要旨別掲）。

講義の後、参加者は稽古着に着替え、日頃稽古している種目の実技研修を受けた。各道を代表する講師の指導を受けることのできる貴重な機会とあって、寒さを忘れて稽古に励んだ。

有田秀穂氏講義

「武道で脳を活性化する」

私は医師・脳生理学者で、武道家ではありません。初めにそれをお断りしておきます。

座禅の呼吸法を行うと、間違いなく大脳と心に関係する領域に影響があります。その結果をサイエンスの国際誌に発表しましたので、それを皆さんにお話しいたします。

座禅の呼吸法を行うと、脳の中にある特別な物質が出てきます。心に関係した物質であるセロトニンがでます。

セロトニンという物質が科学の分野で発見されたのは約60年前です。セロトニン神経は、脳のあらゆる機能に影響するという点で極めてユニ



ークですし、このような神経は珍しいといえます。セロトニン神経の働きが弱って、その分泌が減りますと覚醒が落ちます。心のバランスが取れず、痛みの調節ができなくなり、姿勢が悪くなります。そして自律神経失調症が起ります。したがって、セロトニン神経の働きを活性化すれば、逆のことが起ります。

また、呼吸と咀嚼と歩行という非常にベーシックなリズム運動が脳のセロトニン神経を変え、気分を変え、そしてその他の脳の働きに影響を与えるということが明らかになりました。

心や気分を変えるのは脳ではなく、運動なのです。丹田呼吸法を行うと大脳が変わり、心の面ではネガティブな気分が改善されます。やっているのは、腹筋のエクササイズだけなのです。また、丹田呼吸法によって直感、第六感という、言葉で表現できない機能も上がるのです。それが丹田呼吸法がもたらす脳への影響なのです。

大脳を変え、気分を変え、そして直感力を上げるのです。無意識のう

ちに技が出せるためには繰り返しの訓練が必要になります。しかし、その能力をもっと高めるのは、練習だけではなくて丹田呼吸法を引き起こしてくれる可能性があります。そういう丹田呼吸法の力が武道の中に組み込まれているのだろうと考えます。

▽質疑応答

Q 「丹田呼吸法と気功との関係はありますか」

A 「間違いなくあります。私たちは太極拳を研究しています。太極拳の中にも呼吸法が入っています。ヨガでも太極拳でも吐くという呼吸を意識して5分以上の一定時間行うと、同じような脳の変化がでます。内臓が変わります。心が変わります。前頭前野が活性化されます」

Q 「丹田呼吸法の際、息はどのくらい吐けば良いのか教えてください」

A 「吐く時は、ゆっくりと、自分で吐けるだけ吐く。吐く時だけ意識して、吸う時は生きるための呼吸ですから身体にまかせることです。これがポイントです」

【2日目】

8時半から、国際武道大学で百鬼史訓日本武道学会会長の講義「武道学の国際化」第1回国際武道会議を終えて「が行われた(要旨別掲)」。

その後、10時からA班(柔道、少林寺拳法、なぎなた)、B班(剣道、相撲、空手道)、C班(弓道、合気道、銃剣道)の3班に分かれて、「国際化した武道」教育と競技からのアプローチ」と題した班別討論論が行われた(要旨後述)。

午後は日本武道館研修センターに戻り、講師演武会が開かれた。演武会は弓道から始まり、合気道、相撲、柔道、空手道、銃剣道、なぎなた、少林寺拳法、剣道の順で行われた。専門委員の演武が終わるたびに、会場には大きな拍手が響いた。休憩を挟み体験武道が行われた。体験武道は普段修業している武道以外の種目を体験するものである。参加者は日頃体験できない武道に戸惑いながらも、真剣に取り組んだ。70分間の体験武道の後、休憩を挟み、1回目で選択した武道とは違う種目を選び、2回目の体験武道が行われた。



親睦を深める参加者たち



蒔田実国際武道大学学長

◇ この日の夜はフェアウェル夕食会が開かれた。はじめに蒔田実国際武道大学学長が挨拶の言葉を述べ、続いて、なぎなたの砂川邦子範士が乾杯の音頭をとり、夕食会が始まった。参加者は、武道について会話を弾ませ親睦を深めた。

百鬼史訓氏講義「武道学の国際化
〜第1回国際武道会議を終えて〜」



2012年、イタリア・ジェノバ市で行われたIMACSS※の国際会議では、Martial ArtsとCombat Sportsにおける競技（遊

戯）性、演劇性そして宗教的儀式性が中心的課題として話し合われました。宗教的な儀式で行われる戦い由来とする踊り・伝統芸能などの研究発表がありました。確かに武道にも歴史的に宗教性がみられますが、それらもMartial Artsとして捉えらるるとすれば、私は武道の概念とは異なっていると思いました。武道の国際化を図る上で武道の概念規定や特性について検討するには、海外で武道がどのように捉えられているのかを知る必要があると考え、国際シンポジウムを開催することを企画しました。

学会創立45周年記念大会として、国際シンポジウム『武道の捉え方〜世界の動向〜』を開催し、IMACSS会長とのW・J・シナルスキー氏と大韓武道学会会長のキム・ジョンヘン氏を招待して議論を行いました。その中で、Martial Artsについては、スポーツ、護身、自己防衛の手段、民族、文化、宗教的な背景をもとに構築された伝統的なものと、ある創始者が作り出した近代的なものなど様々な理解がありました。

Martial Artsの概念はBudoが含まれているものの、その概念は拡大しています。Combat SportsやFighting ArtsにもBudoが含まれており、Budoの固有性については不明瞭になるばかりです。

これらのことを考えると、武道はBudoとして表記することにより、固有性を主張することができ、他の差別化が図れるものと考えられます。Budoは武道として理解されてきている今日、今後は武道はBudoとして表記していくことが望ましいと考えるに至っております。

※ International Martial Arts and Combat Sports Scientific Society



講師演武会



柔道



剣道



弓道



空手道



相撲



合気道



なぎなた



少林寺拳法



銃剣道

◎ 班別討論会「国際化した武道と教育と競技からのアプローチ」
 A、B、Cの3班に分かれ、各専門委員が国際化した武道の現状、問題点、今後の課題などを述べ、その後、質疑応答が行われた。

▽A班

なぎなた・砂川邦子専門委員

なぎなたは他の武道に比べ国際化は進んでいません。しかし、徐々にではありますが、海外でのなぎなた人口は増加しています。世界大会は4年に1度行っています。2年後にはカナダで開催する予定です。

各種大会が数多くあるため、どうしても競技中心となっています。正しい基本から形に、形から試合にという過程が理想です。また、日本国内と海外では審判を養成するための過程が違いますので、審判力という面では少し差が出ているように思います。

少林寺拳法・杭田要専門委員

少林寺拳法はここに集まっている9つの武道の中で、歴史的に最も新しい武道です。当初は主として日本

で広めようということで世界戦略は全く持っていませんでした。しかし、現在では37カ国で少林寺拳法を楽しんでいただいております。質の高い若手指導者を、どんどん養成していくことが、いま問われている課題です。

柔道・田辺陽子専門委員

国際柔道連盟には約200の国と地域が加盟しています。競技面で国際化した要因は、3点あります。1点目は競技としてオリンピック種目になったこと。2点目はオリンピック種目に採用されたと同時に、女子柔道が普及したこと。3点目は海外での日本人指導者の増加です。

指導者の養成が課題になります。そこでは教育と競技のバランスが求められると思います。

▽B班

剣道・網代忠宏専門委員

剣道界では国際化という言葉はあまり使っておりません。日本の剣道を世界で行っていただきたいという願いから、形を変えない、精神を変えないということで、国際的普及と

いう言葉を使っています。

剣道用具、指導者など、まだまだ問題点はたくさんあります。一つ一つの課題について前向きな姿勢で問題解決に取り組み、国際剣道連盟に多くの国が加盟してくれることを願っております。

相撲・伊東良専門委員

日本相撲連盟は、相撲をスポーツとして世界に広めるため、相撲競技のオリンピック参加を目指して1992年に世界相撲連盟を発足させています。海外での競技者人口は増えていますが、まだまだ多いとはいえません。特に女性選手が少ないという現状があります。

国内外でのアマチュア競技では、土俵上で喜びを表す選手は少なくありません。相撲を国際化していく上では、武道の心得を各国で共通認識としていくことが必要であり、課題だと思えます。

空手道・前田利明専門委員

海外でも、己の人格を高めるために空手の稽古に励んでいる愛好家の方が非常に多くいます。そのような

班別討論会



A 班



B 班



C 班

人たちは、日本人よりも礼節がしっかりしています。しかし、世界大会では、勝利の喜びのあまり、相手に対する思いやりに欠ける部分が見受けられます。

国際化した空手道の悩みも出てきています。武道空手と競技空手を分けるのではなく、あくまで空手道という根幹をしつかり残していくことが大切ではないかと考えます。

▽C班

弓道・澤田欣一専門委員

弓道の最高目標である真善美、それを意識して指導することが大切だと考えます。しかし、若年層に対しては、なかなかそこまで指導が及びません。

本年7月には第2回世界弓道大会が開催されることになっています。国際化の一番の問題は、弓道場、道具、指導者数と質の問題などが挙げられます。日本の伝統文化を後世に正しく伝え、世界に普及させることが大切だと思います。

合気道・金澤威専門委員

合気道は海外95カ国で行われてい

ます。どこの国に行っても日本と同じ環境で稽古できるのが現状です。それは、海外で稽古している人たちが合気道を日本の文化の一つとして稽古し、日本の習慣などを積極的に学ぼうとしているからだと思えます。指導する上では、日本との違いを感じることもあります。日本での指導はあまり言葉を使わず、稽古を見て感じ取ってもらうのが普通ですが、海外では言葉の説明を求められ

たり、質問がたくさん出ます。

銃剣道・佐藤亨専門委員

銃剣道は海外での指導者や銃剣道用具の不足などから、国際化に関しては、他の武道と比べ圧倒的に遅れを取っています。海外で武道を行う人は、競技より形に非常に興味を持っていての傾向があると感じています。これらの特性を踏まえ、銃剣道・短剣道も今後さらに形を大事にして、海外の方々に普及していかなければなりません。

各種目の課題発表の後、参加者からは次のような意見感想があった。「なぎなたにおける海外での大きな

実技研修・体験武道



銃剣道 (短剣道)



剣道



弓道



相撲

問題は、稽古年数の短い人が指導者となっていることです。また、さまざまな審判教材となる本やビデオがなく、日本語だけでは我々は理解できないので、海外向けに同じ内容の教材を作って欲しいです」

「柔道について、日本だけではなく全世界の問題として、女性選手は増加しましたが、女性のコーチや指導者が少ないことが問題だと思いません」

「ソーシャルネットワークの管理をしています。そのメンバーは約一万人います。掲示板で剣道についての意見交換なども行っています。管理者として皆様が載せるコメントを見て一番目立つのは、剣道を国際化するのではなく、日本の剣道を変えずに守っていくという共通した考え方、場合によっては日本人より保守的な気持ちが伝わってきます」

「武道の心や伝統が大事でありながら、なぜ相撲はオリンピック種目を目指すのでしょうか。また、オリンピック精神と相撲が持っている本質をどのように統合するのでしょうか」

「空手の流派は、なぜ分裂してしま



班別討論会では活発な発言が続いた

うのでしょうか。また、この流れは止められないのでしょうか」

「有田先生の講義では、科学で坐禅のメリットが示されました。同じように、武道で大事だと言われている人間形成を科学的に計ることはできますか。それが可能であれば説得力があり、国際化できると思います」

「道場で会って指導するのではなく、DVDなどの映像を見て学んでもらうことについてはどう思いますか」

実技研修・体験武道



合気道



少林拳法



なぎなた



柔道

【最終日】

8時半から、金硬流唐手沖繩古武術の講義・模範演武、体験会が行われた。講義では早坂義文（金硬流唐手・沖繩古武術流儀継承者）が琉球王朝時代から門中に伝わる武術の流れを説明した。その後、隠し武器の鉄柱、三節棍や、琉球武術における所作を紹介した。

講義が終わり、早坂代表の演武を見学した後、参加者は棒術、釵術、ヌンチャク術などの武器術を体験し



早坂義文講師



早坂講師による演武

た。隠し武器なども陳列され、参加者は興味津々、手に触れていた。その後、60分の実技研修が行われ昼食をはさみ、班別討論会の概要発表が行われた。概要発表者は各班の参加代表者が行った。

閉講式では、参加者を代表して仮屋茂氏に修了証が授与された。最後に吉川英夫（日本武道館振興部長）が主催者挨拶を述べ、全日程を修了した。



参加者を代表して仮屋茂氏に修了証が授与された

【講義講師】

有田秀穂（東邦大学名誉教授）、百鬼史訓（日本武道学会会長）、早坂義文（金硬流唐手・沖繩古武術流儀継承者）

【コーディネーター】

村田直樹（日本武道学会理事長）

【実技講師（専門委員・助手）】

▽柔道Ⅱ田辺陽子（女子六段）、石井兼輔（七段）、越野忠則（六段）、矢崎利加（女子五段）

▽剣道Ⅱ網代忠宏（範士八段）、井島章教士（八段）、丸橋利夫（教士八段）、岩切公治（教士七段）

▽弓道Ⅱ澤田欣一（範士八段）、坂本武彦（教士八段）

▽相撲Ⅱ伊東良四（段）、西方航（三段）、一ノ瀬康人（二段）

▽空手道Ⅱ前田利明（教士七段）、金山亨鐘（三段）

▽合気道Ⅱ金澤威七（段）、森智洋（六段）、少林寺拳法Ⅱ杭田要正（範士七段）、石井明仁（大拳士五段）

▽なぎなたⅡ砂川邦子（範士）、小野恭子（教士）

▽銃剣道Ⅱ佐藤亨（範士八段）、小川功教士（八段）

【通訳】

アレキサンダー・ベネット、岩田ヘレン、シヨーン・オコネル、ブルース・フラナガン



第26回 国際武道文化セミナー

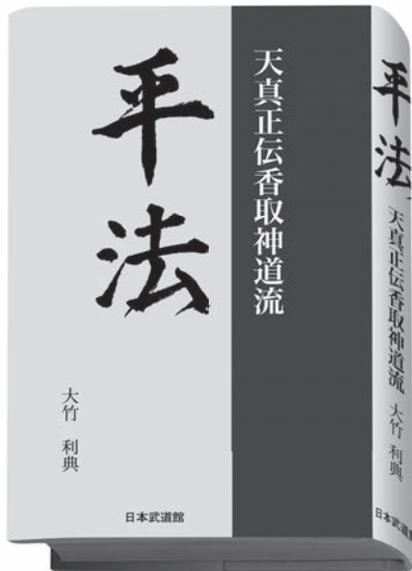
好評発売中

天真正伝香取神道流師範 大竹利典 著

平法

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、 「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇―全ての修行者へ
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり ―平和を願う偉大なる教え



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

平成 25 年度 中学校武道授業（柔道）女子指導法研究事業

女子に特化した指導法研究事業を初めて開催

3月1日・2日 ナショナルトレーニングセンター



体落としの段階的指導

平成25年度中学校武道授業（柔道）女子指導法研究事業（主催Ⅱ日本武道館、全日本柔道連盟、日本武道協議会）は3月1日・2日、東京・西ヶ原のナショナルトレーニングセンターで行われた。本事業は女子中学生への指導法を研究する目的で行われ、講師3名と女性研究者11名が参加して行われた。

初日は8名の研究者による実践報告と研究協議が、最終日に研究協議と講師による講義が行われた。



実践報告① 固め技（袈裟固め・横四方固め）Ⅱ渡辺冬花研究者

袈裟固めでどこに体重をかければ相手が逃げられないかを考えさせている。授業では「一本」「それまで」など柔道の言葉を使って耳慣れさせる。固め技の試合では、横四方固めに近い状態のペアができたなら、生徒を集めて固め技の説明を行う。また、7分程度の柔道の動きを組み合わせた運動を考案し、準備運動として行っている。

実践報告② 投げ技（体落とし）Ⅱ

駒木奈緒美研究者

体落としの指導では足の使い方を畳の線を使って教える。また、釣り手・引き手の使い方は生徒にイメージさせるため、わかりやすい例えを用いる。安全のため、最初は受けが相手を踏み越えて自分で転がるようにする。また、オノマトペを多用し、生徒が柔道の動きで共通認識を持つよう工夫している。

実践報告③ 投げ技（膝車）Ⅱ濱名

三代子研究者

普段は外部指導者として学校授業に携わっており、今回は4時間目の実践を披露。膝車は最初、受けを膝立ちにし、左足を伸ばして相手の右足に足底をあてて転がす。初心者だとお尻から落ちていくが、それでもよしとしている。

実践報告④ 体捌きⅡ灰原菜美研究者

中学校の授業ではやりたくないものもあるので、楽しみながら実践している。女子生徒の特性としてリズムに合わせると体が動きやすい。私の場合は童謡の「雪」に合わせて体捌きの8種類を覚えさせている。名称は無理に覚えさせていない。準備運動に取り入れるなどして、技の授業

の際にも使っている。学校は柔道をツールとして活かしていくことが目当てだと考えたときに考えが変わった。

実践報告⑤ 投げ技（膝車） Ⅱ谷井 愛研究者

柔道未経験で今年から柔道を自分で教えている。自分の中に柔道の蓄積がないので、教える際にうまく表現がなかなかできない。体の部分で分けて考えるとわかりやすいので、まずは手だけで相手を崩し、次に手の動きに足捌きを加えて、最後は相手の膝頭に自分の足をあてて行う。

実践報告⑥ お茶の水女子大学附属
中学校での実践 Ⅱ宮本乙女研究者



リズムに合わせて体捌きを行う



研究討議



本事業には3名の講師と11名の研究者が参加

約束乱取を行い、生徒は教えられた技（大腰、体落とし）を使用する。はじめに取りと受けを決め、投げられるまでは普通に乱取を行い、投げられそうになったら、受けは受け身を取る。約束じゃない乱取も行ったが、実際にやってみると30秒程度しかもたず、試合時間は45秒とした。



また、「女子柔道選手から見た心理的特性」と題して上野雅恵研究者から、現役時代と指導者になってからの経験談が語られた。続いて、藤川紀美研究者からは高校体育での女子生徒の特性及び武道指導の実態の発表が行われた。

研究討議では、各実践報告についてそれぞれ討議を行い、女性研究者が普段抱える悩みなども含めて話し合った。

その後、鮫島元成講師が安全指導について、実技を交えながら講義を行い、磯村元信講師が『柔道指導の手引き（三訂版）』の活用及び評価の観点について、解説を行った。

結びに尾形敬史講師が「様々な経験や年代、指導歴の方がいる中で、柔道の指導というのを女性の観点から改めて見直し、我々も勉強になりました。今回は充実した研修会ができました」と挨拶して本事業を締めくくった。

【研究事業参加者】

▼講師

尾形敬史（全日本柔道連盟教育普及委員長・中学校武道必修化対策チーム委員長）

鮫島元成（全日本柔道連盟教育普及委員会副委員長・中学校武道必修化対策チーム委員）

磯村元信（全日本柔道連盟教育普及委員会委員・中学校武道必修化対策チーム委員）

▼研究者

田辺陽子（日本大准教授）

渡辺冬花（全日本柔道連盟中学校武道必修化対策チーム委員）

植田真帆（和歌山県国体推進局競技力向上推進課）

上野雅恵（三井住友海上）

駒木奈緒美（横浜市立共進中）

下田久美子（文京区立第三中）

谷井 愛（紀の川市立粉河中）

灰原茉美（講道館指導員）

濱名三代子（濱名道場）

藤川紀美（神奈川県立住吉高）

宮本乙女（日本女子体育大）

▼オブザーバー

薪谷 翠（JOC柔道専任コーチ）

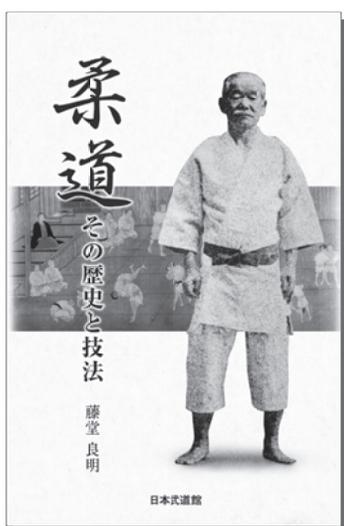


好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選士権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p> <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>
---	--	--

 <p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ!</p>	<p>TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--	---

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

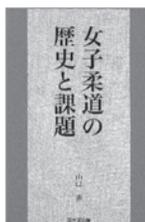


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は 素晴らしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

成年の部

女子の部

高校生の部

第13回全日本短剣道大会

39 普連 A、郡山、由利高 A が優勝

第13回全日本短剣道大会が2月22日、日本武道館で開催され、団体戦3部門・個人戦5部門で争われた。

団体戦

◇成年男子の部

101チームが出場。決勝は39普連Aと兵庫県選抜の対戦となった。39普連Aが先鋒、中堅と続けて胴で二本勝ちする。大将戦は兵庫が勝ち、2対1で39普連Aが初優勝した。

39普連A・桑田文人監督

「全日本に出場し始めて3年目ですが、この結果が残せたのも、選手たちの努力があったからです。今日は練習以上の力を出せていたのではないのでしょうか。課題はたくさんありますが、来年の連覇を目指します」

◇女子の部

13チームが出場。決勝は前回と同

じ郡山対由利高剣友会。前回優勝の郡山が、先鋒、中堅、大将と全員が二本勝ちで連覇した。

郡山先鋒・山口あや子選手

「先に行われた個人戦で優勝し、気持ちを引き締めました。団体・個人同時の優勝は初めてなので嬉しいです。ますます短剣道が好きになりました。自分の精進ももちろん、これから後輩の育成に努めて短剣道人口を増やしていきたいです」

◇高校生の部

18チームが出場。決勝では由利高Aと三条商業高Aが対戦した。先鋒は由利が、中堅は三条商業が勝って1対1。大将戦、由利が胴を二本奪って優勝を決めた。

由利高校大将・小松阜史選手

「連覇がかかっていたので、果たせて嬉しく思います。キャプテンとして、チームの雰囲気良く臨めるよう

にしました。後輩たちには3連覇に向けて頑張ってほしいです」

個人戦

◇成年Aの部（35歳以下）

213名が出場。決勝は山口徹（18普連）と小林陽介（20普連）の対戦となり、山口が胴を立て続けに二本決めて初優勝を手にした。

山口徹選手

「1回戦から落ち着いてやってこられたので、それが勝因かなと思います。決勝でも力むことなく、平常心で戦えました。これからも日々精進したいと思っています」

◇成年Bの部（36歳以上50歳以下）

67名が出場。決勝は近野泰則（体育学校）対牧野天施（体育学校）となり、近野が胴で二本勝ちした。

◇成年Cの部（51歳以上）

22名が出場。中村興正（体育学校）

と須合元（秋田）が決勝で対戦し、中村が胴を二本決めて優勝した。

◇女子の部

43名が出場。決勝は山口あや子（郡山）と中野渡弥生（神奈川）の対戦となり、山口が胴の二本勝ちで2年ぶり2回目の優勝を手にした。

◇高校生の部

49名が出場。決勝では大谷竜輝（三条商業）と小松阜史（由利）が対戦した。小松がノドを決めて先制するも、大谷が胴で二本奪って逆転し、初優勝に輝いた。

大谷竜輝選手

「進路のことで忙しい中、できる限り練習して結果が残せて良かったです。決勝は冷静に戦えたので一本取られても取り返すことができました。進学のため県外に出してしまいましたが、卒業後も機会があれば短剣道が続けていきたいです」



団体戦女子の部・決勝中堅戦＝秋元（左）対石井



郡山中堅・秋元美栄選手は、短剣道を始めてわずか2週間での大会出場だった。「もともと剣道をしていました。剣道と似ているけど、相手の体に触ったり、剣道にはない技があるのが面白いです。これからも続けていきたいと思います」



団体戦成年の部・決勝先鋒戦＝菊池（右）対増田



個人戦優勝者＝前列左から大谷竜輝、山口あや子、中村興正、近野泰則、山口徹



団体戦高校生の部・決勝大将戦＝小松（右）対高井



- 【大会結果】
- 団体戦
 - ▽ 成年男子 ① 39 普連 A ② 兵庫県選抜 ③ A L S O K ・ A、戦隊隊 B
 - ▽ 女子 ① 郡山 ② 由利高剣友会 ③ 福岡県選抜、神奈川県選抜
 - ▽ 高校生 ① 由利高 A ② 三条商業高 A ③ 尽誠学園高、由利高 B
 - 個人戦
 - ▽ 成年 A ① 山口徹 (18 普連) ② 小林陽介 (20 普連) ③ 小山鍊 (39 普連)、大島康彰 (普教連)
 - ▽ 成年 B ① 近野泰則 (体育学校) ② 牧野天施 (体育学校) ③ 佐藤武範 (愛知)、長谷川英昭 (群馬)
 - ▽ 成年 C ① 中村興正 (体育学校) ② 須合元 (秋田) ③ 相野照昭 (青森)、船城明 (徳島)
 - ▽ 女子 ① 山口あや子 (郡山) ② 中野渡弥生 (神奈川) ③ 石井さやか (由利高剣友会)、小松美緒 (山口)
 - ▽ 高校生 ① 大谷竜輝 (三条商業) ② 小松皐史 (由利) ③ 西山佳佑 (尽誠学園)、野口将史 (三条商業)